

## クローン

僕は置き去りにした  
その谷底に

そして僕は拾い上げた  
その谷底から

それは僕自身  
僕そのもの

ひとつではない

緑色をした、冷たい視線が注がれている

あらゆるものが無縁になった——  
そのことを喜んでいる

何層にも次元が重ねあわされた世界  
それは面であると同時に点でもある

単調な語りに終始する福音書のように  
うねうねと続く時間というもの——

それは同時に恍惚的な対象となっている

ああ、今や西洋だけでなく  
ひとつの種そのものが凋落を目指している

あるいは、かつての創造主に代わり  
造物主として死を選ぼうとしている

既に我々は何も見していない  
既に我々は何も聴いていない  
既に我々は何も感じることはない  
既に我々は己自身である必要はない

私は置き去りにした  
その谷底に

そして拾い上げたのだ  
創造された僕自身を  
すなわちクローンたる「僕」を

(2010.12.6)